

平成24年 4月27日(金)

倉吉市議会

議長 谷本修一様

倉吉市議会

会派 未来・絆 共同

会長 朝日等治

副会長 大田進

去る4月23日月曜日から同月26日木曜日までの4日間、つぎの通り行政視察及び陳情を行いましたので、関係書類を添付し復命いたします。

復 命 書

記

1. テーマ

「被災地における災害復興への支援と本市としてのこれからの新たな企画の可能性を探る」

2. 分野

災害復興支援・若者定住促進・雇用・文化・産業振興・観光・企業誘致・建設

3. 期間

自：平成24年4月23日(月) 至：平成24年4月26日(木) 4日間

4. 内容

……………【第1日目 4月23日(月) 15:10～16:05】……………

■東京都千代田区大手町2-6-4 アーバンファームパソナグループ本部

■『被災地・被災者支援と若者の定住化促進について及び水耕栽培について』

アーバンファームパソナグループでは、これからの農業を担う新しい発想と知識を持った人材を確保することで、農業分野における雇用の創出をめざすため、都心のビル内に水耕栽培施設を整備し、農業に興味を持つ仕組みづくり、農業を知りビジネスとして捉えるきっかけを作り、農業にチャレンジしやすいインフラの構築に取り組んでいる。

そして様々なプロジェクトを全国で展開し、同社が持つ幅広い求人情報とネットワークを活かし、被災者の雇用創出にグループ全体で取り組んでいる。

昨年発災した東日本大震災及びそれに伴う原発事故に対し、本市としての支援策を模索し、具体的な調査を進める中で得た情報が、同社による若者を対象とした人材育成事業「ここから村」である。

情報入手後、Web及び電話等の手段によって調査を進めてきたが、今般の視察は事業展開地の現地に赴く前に同社本部において、同事業への内容を更に深め、同社の水耕栽培施設も併せて調査することとした。

同社の人材育成事業「ここから村」の概要はつぎの通りである。

全国に事業展開する同社では、淡路島において兵庫県からの受託によるふるさと雇用再生事業を活用し、若者の人材育成事業「ここから村」を実施している。

「ここから村」は、日本全国から音楽や演劇などの芸術を志す若者が集い、自らの才能と能力に磨きをかけ、様々な専門知識を身につけ、それぞれの地域において若者の活力を活かし地域活性化に取り組むという新たな人材育成の仕組みである。

そしてこの事業では、被災地・被災者支援の観点から、若者の活力を東北復興の原動力にすることを最大の目的とし、被災者の優先枠を設けていることも特徴である。

被災地から参加する若者たちは「ここから村」で実施する就労支援プログラムや研修・講座を通じて、ビジネスやベンチャー、農業や漁業、観光などにおける専門知識を習得し、プログラム終了後は地元へ戻り、「農業・漁業復興の担い手」として、また「ベンチャー企業家」として被災地・被災者の復興に貢献できるよう「東北復興プロデューサー」としての育成をめざしている。

今般の視察・調査に併せ、現地・淡路島での視察・調査も同時に実施したいところではあったが、行程及び時間を考慮すると困難な状況となったが、今後事業実施地における視察・調査の必要性を強く感じた。

現地視察・調査の完了後、この件についてはまとめたいが、本市の産業構造と本市の若者の離郷が続く実態を考えると、同社のこうしたプログラムを誘致した、「くらよしここから村（仮称）」の創設を積極的に進めるべきであり、本市としてはまずは被災地・被災者支援、若手芸術家の育成、そして若者定住化の観点からも、ぜひ取り組みを進めるべきと考える。

……………【第2日目 4月24日（火）13:00～15:00】……………

■千葉県鴨川市横渚1450 鴨川市議会6階会議室及び現地

■『アニメによるまちおこしについて』

住む町がアニメに登場する。そして若者を中心とした視聴者が『聖地巡礼』と称し独自の検索ルートを設定し、登場した場所を訪れる。多くのファンが県外から訪れることによって町がにぎやかになり、地元住民も同時に盛りあがる。

偶然にもアニメに登場した自治体が費用をかけることなくアニメ産業に関わり、町の観光や地域産業の育成に取り組んでいるそんな姿を見聞し、自治体の取り組みを視察・調査するため千葉県鴨川市を訪れることとした。

視察先の鴨川市役所庁舎に向かう途中、地元店舗2件及び地元住民並びに東京都と神奈川県から訪れていた若者から、同市のアニメによるまちおこしを中心とした観光施策について話を伺った。

安房鴨川駅前の食堂店主及び従業員の方によると、同市を舞台にしたアニメ『輪廻のラグランジェ』がテレビ放映されるようになった今年1月以降、『聖地巡礼』という目的で多くの若者が同市を訪れるようになり、以前と比べると駅前がにぎやかになったと話す。

次に訪れたファストフード店の店主は、店構えから客は県内外のサーファーたちがほとんどだったが、アニメの取り組みが始まってから、特に県外のアニメファンの若者たちが食事やドリンクを求め来店してくれるようになったと話す。

この日、同店を訪れていた東京都及び神奈川県のサーファーの青年は、鴨川の波を求めてよく訪れます。テレビ放映までは海岸線はサーファーばかりだったが、今ではカメラ持参の若者たちが多く訪れ、ウェットスーツとカジュアルルックが海岸線を埋めていると話していた。

店を後にし、鴨川市役所を訪問する。

尾形喜啓議長より歓迎あいさつをいただいた後、産業振興課課長山田一郎氏、同課商工振興係長鈴木浩一氏、山本新氏、及び建設企画部企画政策課政策推進係副主査畑中博司氏並びに議会事務局

次長佐久間達也氏より『アニメによるまちおこしについて』庁舎会議室及びアニメに登場する現地において説明を受ける。

注視すべきポイントは、行政が制作したアニメーションではなく、6社で構成される制作チームによる作品『輪廻のラグランジェ』に同市の名前が随所に現れることから、放映を契機ととらえ商工、観光など地域経済の核となる各種団体を取り込み、アニメーションという新たなコンテンツと同市の地域資源を結び付け、同チームの制作・放映を支援するため、市民と一体となった推進チームを編成し、アニメを活用したまちづくりの議論を重ね、実践し、地域全体の活性化に取り組んでいることが最大の特徴といえる。

そして、アニメの視聴者である観客が鴨川市の地理を分析し、自分たちで巡礼のルートを作り『聖地巡礼』と称して同市を訪れていることにあり、『聖地巡礼』はアニメファンのコンテンツであるが故、ファンが行政を動かし、ファンが地域を動かしているといったメカニズムを客観的ではあるものの感じ取ることができた。

同市では、新たなコンテンツ産業であるアニメから、思いもしない形でまちおこしへの大きな動きが始まり成功へと導かれていった訳ではあるが、本市においても決して不可能ではないと考える。

本市においては類似の取り組みは困難と考えるが、ビッグチャンスを待つことなく『聖地巡礼』ブームを活かし、費用対効果を精査しながら、本市の場合には行政側からのアプローチでアニメーションを制作し、観光施策の充実と地域産業の育成に今こそ取り組むべきではないかと、その必要性を強く感じた。

……………【第3日目 4月25日(水) 10:00~12:50】……………

■宮城県石巻市雄勝町小島字和田123 石巻市雄勝総合支所及び現地

■『災害復興の現状と今後の復興計画について』

東北・関東の被災地のみならず、日本全国の人々の生活や経済環境、価値観をも一変させた東日本大震災。被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

このたびの行政視察は、昨年6月、会派視察として同市を訪れ未曾有の被災状況を目の当たりにし、会派として、議員個人として、また本市行政が何かできること、すべきことについて考え、行動してきたことを検証する行政視察となった。

当日は、同市の公用車に搭乗しJR石巻線から同支所までの間、地域振興課課長補佐阿部浩章氏から復興施策等の説明を聞き、昨年と同じ地に立ち寄り現場における復興状況を体感する。

石巻市雄勝総合支所到着後、相澤清也支所長より歓迎のあいさつをいただき、引き続き復興推進監三浦 裕氏、地域振興課課長補佐阿部浩章氏、同課主幹武山雄子氏より同支所管内における被害状況及び同市における被害概況、解体を含む瓦礫処理、高台移転と公営住宅に対する考え方、中心街及び町全体の復興計画と構想について詳細に説明を受ける。

今なお余震が続くこの震災からの復旧、復興の道のりはまだまだ長く、平坦ではないと強く感じた。

そして住み慣れた土地を離れ避難生活を余儀されている方々、職を失ったままの方々、職場そのものが津波で流されてしまった方々、壊滅的な被害を受けた東北地方の基幹産業であった第一次産業に従事されていた方々、そして何よりも、自治体の職員として町の復興を進める一方、思うように進まないいらだちを抱えながらも笑顔で対応していただいた同市の職員各位の笑顔には、復興への希望を感じながら勇気と元気を与えられる一方、何とも言えない切なさを感じた。

今もなお、津波や地震の被害は甚大である。

住居や事業所、インフラが再建され、被災者の方々が元の生活を取り戻し、被災地全体が本当の意味での復興を果たすには、政府の復興対策はもとより、全国の自治体が連携、協力して長期的、継続的な支援を行っていく必要性を強く感じた。

今はまず、瓦礫の処理。

……………【第4日目 4月26日(木) 10:00~10:30】……………

■東京都千代田区永田町2丁目2番1号衆議院第1議員会館605号室 小沢一郎事務所

■『国道313号(倉吉関金道路)の工期短縮についての陳情及び交通網についての協議』

一昨年11月、会派で『地域高規格道路(北条湯原道路)の早期整備についての陳情』を行った。この際は、同道路のうち未整備区間であった「倉吉・関金」間、及び岡山県側の「蒜山下長田・初和」間の早期整備についての陳情を行った。

昨年5月「倉吉・関金」間が事業着手となり、平成23年度から15年度間を目途に整備されることとなった。

一方、岡山県側においても「蒜山下長田・初和」間が事業着手となり、平成24年度から7年度間を目途に整備されることとなった。

我々の陳情活動が結実し、地域高規格道路(北条湯原道路)の全線が事業実施・着手となったが、未整備区間「倉吉・関金」、「蒜山下長田・初和」2区間の早期整備・工期短縮についての陳情活動を行った。

議員活動として2区間の早期整備・工期短縮の陳情を行ったが、本市としては本市市民の生活圏と交流圏の拡大及び地域経済の活性化を念頭に「倉吉・関金」間のうち「倉吉福山・関金」間が『地域高規格道路(北条湯原道路)』の最後の整備区間になることを踏まえ、岡山県及び真庭市等との連携強化を一層強め、行政側からも同様の陳情をなさるべきと考える。

最後に、同事務所からは、道路網の整備に併せ新たな交通網も考える時期が到来しているとのアドバイスもいただいた。既成概念や慣例・慣行にとらわれず、新たな発想・観点により市民生活の向上と本市産業の活性・振興を考えるならば「山陰新幹線」だろうか。